

ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNO.										
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNO.

ボーリング名	B-1		調査位置		北緯	36° 50' 55.2300"				
発注機関	栃木県 大田原土木事務所			調査期間	2010-08-30 ~ 2010-09-01					
調査業者名	主任技師			現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者				
孔口標高	322.55 m	角度		方		地盤勾配		使用機種	試錐機	ハンマー 落下用具
総掘進長	8.00 m							エンジン		ポンプ

標尺 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m)	標準貫入試験				原位置試験	試料採取	室内試験	掘進月日			
											深	10cmごとの打撃回数							N値		
(m)	(m)	(m)	(m)							測定月日	深	0	10	20	30	深	深	採取方法			
	0.30	0.30		表土 (SF)	黒			有機質火山灰土である。植物根を多量に混入し、非常に軟らかい。土は火山灰質を帯び、軟質である。礫は 10-20mmの角礫(岩片)を主体に最大 30mm程を点在し、GL-1.5m以深は混入度合いが高い。GL-1.8m付近より、粘性を減じる。													
1	1.70	2.00		礫混り粘土 (CH-G)	暗茶褐							1.15	1	20	2	30	3			08/30	
	1.70	2.70		風化岩(砂岩) (WR)	暗茶灰			風化・変質が岩芯にまで達し、コアは粘土質砂状を呈す。稀に未変質部を礫状に残す。岩盤等級区分は「D級」。				2.15	7	10	9	26	30	26			
	0.70	2.70		砂岩 (S)	灰			コアは網状亀裂の発達により礫状形を主体とするも、岩片自体は概ね新鮮である。稀に長さ 5-10cmの棒状・片状コアを採取する。岩盤等級区分は「CL級」。				2.45									
	1.00	3.70		風化岩(砂岩) (WR)	暗茶灰			網状亀裂の発達により、コアは 5-30mmの角礫状を主体に砂状スライムを交える。風化・変質は「弱」の状態を概ねとし、岩片自体にもやや軟質さが伺える。局所では風化・変質が岩芯にまで至り、礫混り粘土状コアが採取される。岩盤等級区分は「D級」。				3.00	18	32	2	50	12	>50			
	2.60	6.30		砂岩 (S)	灰			GL-6.45-6.75m間、頁岩粒子を混入する。長さ3-5cmの棒状・片状コアを主体に亀裂の多発部では礫状形で採取される。岩片自体への風化・変質は少なく、ハンマー打撃で容易には割れない硬度があるが、細かいヘアークラック(密着性亀裂)が多く存在する為、亀裂に沿って割れ易い。GL-7.5-7.85m間、割れ目沿いに強風化粘土境が見られる。岩盤等級区分は「CL級」。				3.12									
	1.73	8.03		砂岩 (S)	灰							4.15	12	16	18	30	46	46			08/31
												4.45									
												5.00			6	50	23	>50			
												5.23	28	16	3	23					
												6.00			9	50	26	>50			
												6.26	15	26	6	26					
												7.00	50	6		6		>50			
												7.06									
												8.00	50			50		>50			
												8.03		3		3		>50			09/01